

クーベルタンのオリimpiズムの重要性～これからのオリimpiックの発展のために～

The importance of Coubertin's Olympism～For development of Olympic games～

1K04B213

指導教員

主査 友添秀則先生

万波 智憲

副査 吉永武史先生

＜動機と目的＞

オリimpiズムとは、フランスの教育学者ピエール・ド・クーベルタンによって提唱された言葉である。それは、世界の発展、国際理解、平和に共存することであり、社会や倫理教育においてスポーツの役割を強調するものである。オリimpiズムはオリimpiックを支える根本思想として現在まで受け継がれてきたはずである。しかし時が経つにつれ、商業主義や勝利至上主義の蔓延、またオリimpiックの政治的利用など様々な問題が影響してその概念はだんだんと薄れてしまっている。

近代オリimpiックは、スポーツを通して心身の調和のとれた人間を育成し、相互理解と国際親善を通して世界平和の実現に寄与するものとして始まった。しかし、現在のオリimpiックはオリimpiズムとともにその本来の目的をも忘れつつあるように思える。オリimpiックは、今こそもう一度オリimpiズムの精神を見つめ直すべきだと思う。そこで、今回はクーベルタンのオリimpiズムについて取り上げ、オリimpiックが原点回帰していけるよう研究していきたいと考えた。また、オリimpiズムを世界中の人々に改めて浸透させていくためにはオリimpiック教育が重要となる。世界の国々や過去に日本で行われたオリimpiック教育の実践例から今後のオリimpiック教育に改善できる点についても考えていく。本研究において、オリimpiズムの重要性を明らかにし、これからのオリimpiックが更なる盛り上がりをみせるものへと発展していくことを願いたい。

＜研究の方法＞

基本的には文献講読によって研究を行い、情

報が不足しているところはインターネット検索により情報収集する。

＜各章の概要＞

第一章 オリimpiズムの概念

ここでは近代オリimpiックを支える根本思想であるオリimpiズムの概念、そしてクーベルタンの生い立ちや彼がどのようにしてオリimpiズムを提唱するに至ったのかについて述べていく。またオリimpiズムにこめた彼の願いにも触れていく。

第一節 オリimpiズムとは

第二節 クーベルタンがオリimpiズムに到達するまで

第二章 オリimpiズムが薄れていった背景

勝利至上主義の蔓延により、「オリimpiックは参加することに意義がある」というクーベルタンの言葉は薄れてしまった。また、オリimpiックの商業的・政治的悪用はオリimpiック本来の目的とともにオリimpiズムも消し去ろうとしている。今や、オリimpiックは国と国、または企業やスポンサー間の競争の場となっている。

第一節 勝利至上主義の蔓延

第二節 オリimpiックの政治的利用

第三章 オリimpiズムの再検討

これまでオリimpiックの発展におけるオリimpiズムの重要性について述べてきたが、オリimpiズム自体にも改善が必要な点があると思うのである。この章では、オリimpiズムの改善点について考え、自分なりの新しいオリimpiズムの形を探っていこう

と思う。また、どのように人々にオリンピズムを浸透させていくのかについても触れていく。そこでは、オリンピックの歴史や本来の目的、またオリンピズムに関する学習の機会の保障が欠かせない。

現在、世界の国々で充実した、またその国や地域の特性を活かしたユニークなオリンピック教育が展開されている。日本でも、日本オリンピック・アカデミー(JOA)が中心となり、オリンピック教育が展開されている。

第一節 オリンピズムの再検討

第二節 オリンピック教育の必要性

結章 本論文のまとめ

ここでは、本研究の要約、そして私たちが今までよりも一層オリンピックの発展に貢献していくためには、今後オリンピック教育をどう改善していくべきかについて述べていく。